

いじめの初期対応がうまくいかず、問題がこじれた事例

キーワード：

当事者の思い

いじめへの初期対応

ズレを小さくする

この事例解説では、じめの初期対応に失敗した事例から、当事者の思いを中心にまとめました。

問題の概要

1年生の9月頃から、クラスでM男に対するいやがらせが見られた。ふざけているようにも見えるこづき、持ち物を見てのからかい、ノート隠し、体臭チェックと称して臭いをかぐ、その他「死神」「ウザイ」等のつぶやき、ドッジボールで失敗すると、「ドンくさ」と言われるなどである。

両親の思い

先生の思い

親とすれば、休み始めるとズルズルと休むことも心配だし、休ませないことも心配だった。

最近、夜眠れない日が続いているようだ。学校で何かイヤなことがあるのかもしれないとは思っている。
子どもに聞いてもうるさがるだけなので、しつこく聞いてはいない。
時々おなかが痛いと言って休みたがるが、一度許すと、ずるずる休むのではないかと心配なので、何とか叱咤激励して登校させている。
担任の先生に相談した方がいいか、迷っている。

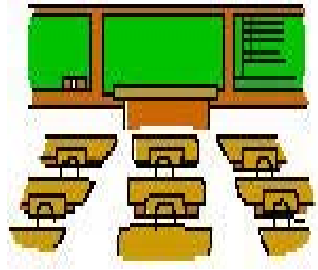
M男は、おとなしくてまじめだが、少し覇気がない感じ。他の生徒であればあまり気にしないことも、気に病んだり、深刻に受け止めがちだ。
1年生は、まだ幼い面が強く、じゃれ合いといじめの区別が難しい。教師が過敏に捉えて介入しすぎると、健全な関係も育ちにくくなる。少し余裕をもって見守ることが必要。
M男がいじめと受け止めればいじめになる。これ以上過激にならないようにする必要はある。
M男は、成績は悪くないが、自己中心的な言動や幼さも見える。これまでの友人関係の乏しさや社会性の不足が窺われる。M男には、もう少したくましくしてほしい。

先生は、いじめを乗り越えることと、M男の成長を絡めて考えすぎた。

先生が見ている範囲では、はっきりと「いじめ」と「じゃれ合い」の区別を付けられなかった。

クラスメートとして仲良くなっていく過程では、トラブルは生じるもの。「じゃれ合い」にも見えるものに過度に反応して、「いじめ」と決めつけることに抵抗を覚え、様子を見ることになってしまった。

「こうしたことに負けるな」という思いと、「何とかうまく乗り越えてくれるのではないか」という期待と、「このままでは大丈夫なのか、これからどうなるのか」という不安が渦巻き、それが本人への叱咤激励や、学校への不満・批判につながった。



生徒たちのやりとりを注意してみていく必要や、関わり方につて、少し指導する必要は感じた。その効果的なタイミングを慎重に計ろうとしたことや、一方その間、M男にも自分からもっと仲良くなるうとしてほしいという思いもあった。

M男の思い

- ・ボクは、運動が苦手で、自分に自信がない。いやなことを言われてもなかなか言い返せない。
- ・ボクは、いじめを受けた時は「気にしないようにしよう」「泣かないようにしよう」と思ってガマンした。
- ・ボクは、先生にも一度話したことがある。先生は「今度そういうことがあったら注意してあげる。でも、仲良くしたい人にはちょっかいは出さずものだよ。自分からも話しかけたりしてごらん」と言った。やっぱり先生に言って仕返しがあると恐いので、それ以後先生には話していない。
- ・ボクがいやなことをされているのは、先生も見たことがある。でも、特に止めに入ったことはなかった。
- ・ボクは、まだ両親には話していない。気が重い日は、お腹が痛いので休みたいと言うが、両親は「頑張っていて行きなさい」と言って、なかなか休ませてくれない。

問題の概要

10月になり、M男は両親にいじめられていることを訴えた。もう学校には行きたくないという。両親はすぐに担任に連絡を取り、状況を訴えた。担任はすぐに、嫌がらせ行為をしている生徒たちを呼び、指導した。その生徒たちは、悪気はなかった。すみませんと非を認めた。担任はすぐにM男と両親にこのことを説明し、相手も反省しているし、もう安心だからと言って登校を促した。

翌日、M男が登校した。しかし、休み時間、「何でこんなことぐらいで親に言うんだ」と言われ、こづかれたりした。M男は、「先生の言うことも信用できない。教室に入るのは恐い」と言って、翌日から欠席を続けた。

いじめた生徒の思い

M男は、すぐに泣くので、おもしろいが、とくに嫌いだということはない。

少しイヤだなと思うことも言ったと思うが、みんな、お互いに言い合っていることだ。

はじめは軽い気持ちだったが、ついエスカレートした。

担任は、おまえたちが悪い。これからは注意しろということだった。

こんなことぐらいで先生に言いつけたM男には、腹が立った。

M男の思い

両親に詰め寄られ、思いきって話した。気持ちが少し楽になった。でも先生がわかってくれるかすごく不安だった。

先生からの連絡で、相手の生徒が反省しているという。登校はイヤだが、勉強はちゃんとやりたい。仲良くしてくれなくてもいいから、構わないでほしい。それを行動で示してもらわないと信用できない。

普通通り登校した。特に先生からは何も言われなかった。でも、昼休み時間、2人の生徒に、「何でチクるんだ」と責められた。話が違う。頭がまっ白になった。

両親の思い

両親は、担任の軽率な対応の結果だとして、怒った。両親から見れば、学校の対応は切迫感が無く、安易であり、通り一遍に思えた。

両親は、M男が安全に生活できる環境作りを急ぐよう求めた。欠席が続き、登校できなくなることを心配していた。

両親は、こうしたことは、早く解決しないとこじれてしまい、ますます登校しにくくなると思い、学校に強く求めた。

学校だけで安全な環境づくりが困難であれば、教育委員会が指導するようにも求めた。

丁寧に対応するには、

丁寧とは、ズレを小さくすること

生徒と教師の捉え方のズレを小さくすること

保護者と教師の捉え方のズレを小さくすること

事実をよく確かめること

相手の思いをよく確かめること

経過をよく説明すること

こちらの思いをよく説明すること